

アンケート結果にみる授業の成果と課題（平成 29 年度）

教育臨床講座・山田 誠

1. 授業の概要

（1）受講者

本授業「生涯学習論」は、生涯学習群の総合人間形成課程及び芸術文化課程における課程共通必修科目である。今回は、後学期に、学校教育基礎コース教育学専修の選択科目「成人期学習支援論」、及び初等教育コース（小学校サブコース）の選択科目「子どもと大人の学びの支援」との合同授業のかたちで開講した。登録学生の合計は16名で、授業科目名別では、「生涯学習論」10名、「成人期学習支援論」3名、「子どもと大人の学びの支援」3名である。

（2）授業の目的・到達目標

本授業の目的は、まず、生涯学習を支援するための基礎的知識を身につけ、とりわけ大人（成人期）の学びの支援について、子どもの学びの支援と対比させ、関連付けながら理解することである。また、各教育部門の取り組みにおいて、子ども期から成人期へと、生涯学習者としての成長をどのように支援することができるかを考えることができるようになるということである。

授業の到達目標は、次の4項目である。

1) 生涯学習、生涯教育に関する基礎概念、及び生涯学習関連施策の動向を把握し、説明できる。

2) 学習支援の基礎理論及びアンドラゴジーの原理について理解し、説明できる。

3) 生涯学習者としての成長や自己主導的学習の支援について理解し、説明できる。

4) 学校教育や社会教育等、各教育部門の特質を把握し、各部門において生涯学習者としての成長の支援にどのように取り組まれるべきかを主体的に考え、論述することができる。

（3）関連するディプロマ・ポリシー（DP）

本学部の卒業時の到達目標（DP）のうち関連する項目は、「教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）」を想定している。

（4）授業の方法・形態

基本的には教科書・配付資料や板書を用いた講義形式中心の授業であるが、発問や受講者の意見発表、受講者との対話を取り入れるようにしている。加えて、筆者は、受講者との双方向性を確保するとともに、受講者における授業内容の理解・定着や思考の深化を促す手立てとしてコメント（振り返り）カードを用いている。また、授業時間外に教科書を読んで学んだことや自己学習・発展的学習を行った成果をコメントカードに記入・報告することを奨励するとともに、その記述内容も評価の対象とすることを伝えている。

2. アンケート結果

最終15回目の授業（まとめと評価）のなかで、期末試験の後、授業全体を振り返っての、受講者による授業評価アンケートを実施した。アンケートは、無記名で、4段階評価形式の質問が4項目9問と自由記述形式の質問が2問である。出席者14名全員から回答を得られた。以下には、アンケート結果のうち授業全般に関するものを示す。

【授業の内容に関する質問】

1-1. [関心・興味] この授業で取り上げられた事柄について、関心・興味がわいた。

4. そう思う：4名（28.6%）

3. まあそう思う：9名（64.3%）

2. あまりそう思わない：1名（7.1%）

1. そう思わない：0名（-）

「そう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定的回答の割合が92.9%であった。前年度「成人期学習支援論」の同じ問いに対する肯定的回答は61.5%であったので、かなり上昇している。

【授業担当者の授業方法に関する質問】

2-1. [わかりやすさ] 教員の説明の仕方はわかりやすかった。

4. そう思う：5名（35.7%）

3. まあそう思う：7名（50.0%）

2. あまりそう思わない：2名（14.3%）

1. そう思わない：0名（－）

2-2. [教材等の使用] 教科書、プリント、黒板（ホワイトボード）等の使い方は効果的だった。

- 4. そう思う：3名（21.4%）
- 3. まあそう思う：8名（57.1%）
- 2. あまりそう思わない：3名（21.4%）
- 1. そう思わない：0名（－）

2-3. [コメントカード] 毎回コメントカードを記述することが、授業内容について振り返るとともに、理解や考えを深めるのに役立った。

- 4. そう思う：6名（42.9%）
- 3. まあそう思う：5名（35.7%）
- 2. あまりそう思わない：3名（21.4%）
- 1. そう思わない：0名（－）

授業方法に関する3つの質問に対する肯定的回答は順に、85.7%、78.6%、78.6%である。前年度「成人期学習支援論」の同様の質問に対する肯定的回答は順に、84.6%、76.9%、92.3%であり、今回「コメントカード」に関する評価が低下している。

【授業全体に関する質問】

3-1. [得るものがあつたか] この授業により、考えが培われたり、得るところがあつた。

- 4. そう思う：7名（50.0%）
- 3. まあそう思う：5名（35.7%）
- 2. あまりそう思わない：2名（14.3%）
- 1. そう思わない：0名（－）

3-2. [目的・目標達成度] この授業の目的・目標は達成された。

- 4. そう思う：2名（14.3%）
- 3. まあそう思う：12名（85.7%）
- 2. あまりそう思わない：0名（－）
- 1. そう思わない：0名（－）

3-3. [満足度] この授業は全体として満足のいくものだった。

- 4. そう思う：1名（7.1%）
- 3. まあそう思う：10名（71.4%）
- 2. あまりそう思わない：3名（21.4%）
- 1. そう思わない：0名（－）

授業全体に関する評価について、上の3つの質問に対する肯定的回答は順に、85.7%、

100.0%、78.6%である。前年度「成人期学習支援論」の同じ質問に対する肯定的回答は順に、100.0%、92.3%、84.6%であり、得るものがあつたか及び満足度において、やや低下しているようである。

【自由記述】（抜粋）

1) この授業を通して学ぶことができたこと、考えが培われたことは、どのようなことですか。

・生涯を通して学ぶことが大切であると認識ができ、就職をしても、積極的にいろいろなことを学ぶ意識をもって生きていきたいと考えるようになった。

・生涯学習についてだけでなく、論語や風姿花伝の解説等、今後役に立つ糧となるような事柄についても学習することができたのが印象的だった。また、身の周りのわずかな機会の中にも、学習で溢れていることに気づくことができ、そういった事を意識しつつ、生活して、社会に出た時生かしたいと思った。

・成人になっても学習を続けることの大切さ、周りの人と協力して自分たちが学習を続けることのできる環境づくり。公民館、図書館、あらゆる施設を存分に使い、これからは学習してみたいと思った。

2) 授業でよかった点、あるいは、こう改善するとよいという指摘など、自由に記述してください。

・この授業は思考できるおもしろい授業だと思う。学歴社会である今日の状況を踏まえても社会的要素があり必要な学習だと思う。だからこそ、テスト（持ち込みなし）というのは残念に思った。レポートなどで考えをふくらませてこそ意味がある。

・丁寧にまとめられたプリントがあり、理解しやすかった。

3. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

(1) 筆者について

昨年度の「授業評価・授業研究報告」に記述させていただいたので、ご参照願えれば幸いです。

(2) 本授業について

成人期の学習、そしてそれを含む生涯学習

は、家庭や学校・大学、地域社会や職場等において展開されている。生涯学習及びその支援の取組において、地域社会は主要な舞台のひとつである。よって、地域社会における学習活動及び学習支援の活動は、本授業で取り上げる重要な事象である。しかしながら、本授業の内容は、必ずしも（特定の）地域社会に焦点化して構成されてはいない。

本授業では、成人の学習をはじめとして生涯学習とその支援に関する理論及び実際について考察する。その際、①国際的視点から動向を追うこともあれば、②国レベルでの取組を把握しようとする部分もあり、また、③地域社会や家庭といった、より身近な生活圏内におけることとしての議論となる場面もある。そして、①～③のような（あるいは、個人、集団、社会といった）異なる視点やレベルで検討するとともに、それらが総合されることにより、授業テーマに関する考察や理解が深められることを目指している。言い換えれば、①や②の内容を③の視点から問い直すことが大切であるし、③の議論をより現実的、建設的なものにするためには、①や②から得られた知識・理解、問題意識が必要とされると考えている。しかし、実際のところ、授業の構成も展開も未熟であり、時間不足にもなりがちで、工夫・改善の余地がある。

なお、今回、「地域社会を核とした教育と研究のつながり」という観点から授業を計画し直したり、シラバスを変更したりするには至れなかった。そして、今回も、最終回に実施した授業評価アンケートにおいて、次の（3）で見ると、「地域社会における教育活動についての関心・理解に関する質問」という項目を立て、2問設定することにした。

（3）アンケートから

【地域社会における教育活動についての関心・理解に関する質問】

4-1. [理解の進展] この授業を通して、社会教育活動（公民館、社会教育主事、PTA等）をはじめ、地域の教育・ボランティア活動（学校教育支援、家庭教育支援、学校・家庭・地域の連携・協力等）についての理解が深まった。

4. そう思う：5名（35.7%）
3. まあそう思う：9名（64.3%）
2. あまりそう思わない：0名（－）

1. そう思わない：0名（－）

肯定的回答が100%と好ましい結果であった。ちなみに、昨年度「成人期学習支援論」の同様の質問に対する肯定的回答は、92.3%であった。

4-2. [情報の提供] この授業で提供された、地域の教育・ボランティア活動や関連イベント（えひめ生涯学習“夢”まつり、地域教育中予ブロック集会等）に関する情報は、興味・関心を持たれた。

4. そう思う：4名（28.6%）
3. まあそう思う：7名（50.0%）
2. あまりそう思わない：3名（21.4%）
1. そう思わない：0名（－）

肯定的回答が78.6%であった。昨年度「成人期学習支援論」の同様の質問に対する肯定的回答は84.6%であり、やや低下している。

今年度も引き続き、地域の教育・ボランティア活動の実施や関連イベントの開催等において、学生が参加者、あるいは運営スタッフとして対象となっており、学生にとって貴重な経験や学びの機会になりうると思われるものについては、学内各所の掲示やチラシ配布、学生・院生への声掛けをし、また、授業内容と関連したものは、授業中に紹介・参加呼び掛けを行うなど、できるだけ協力させていただいている。その際、案内を行った学生たちから実際参加者が得られればうれしいことであるが、授業時間を使って紹介する場合は特に、募集のための情報提供にとどまらず、地域社会における取組、活動事例として学習の一環となるように配慮している。

4. 総括

アンケートの結果については、授業内容に対する関心・興味のように、前年度より向上した項目もあったが、低下した項目もあり、注意したい。また、「そう思う」の比率をより向上させることが必要である。一方、今年度も、筆者は、地域社会に真っ正面から取り組むような研究及び教育は実施できておらず、本授業において両者をつなぐこともなしえていない。筆者にとっては、引き続き課題である。